

令和4年度 研究計画

萩市立田万川中学校

1 研究主題

確かな学力を身に付け、主体的な学びに向かう生徒の育成
～ICTを活用した授業改善を通して～

2 研究主題設定にあたって

(1) 中学校学習指導要領「第3章 教育課程の編成及び実施」の「第1節 中学校教育の基本と教育課程の役割」

2の(1)より

基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること。その際、生徒の発達の段階を考慮して、生徒の言語活動など、学習の基盤をつくる活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、生徒の学習習慣が確立するよう配慮すること。

(2) 令和3年1月中教審答申『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して』4.「令和の日本型学校教育」の構築に向けた今後の方向性 より

○ 令和時代における学校の「スタンダード」として、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に資するよう、GIGA スクール構想により児童生徒1人1台端末環境と高速大容量の通信ネットワーク環境が実現されることを最大限生かし、端末を日常的に活用するとともに、教師が対面指導と家庭や地域社会と連携した遠隔・オンライン教育とを使いこなす（ハイブリッド化）など、これまでの実践とICTとを最適に組み合わせることで、学校教育における様々な課題を解決し、教育の質の向上につなげていくことが必要である。

○ AI技術が高度に発達する Society5.0 時代にこそ、教師による対面指導や子供同士による学び合い、地域社会での多様な体験活動の重要性がより一層高まっていくものであり、教師には、ICTも活用しながら、協働的な学びを実現し、多様な他者と共に問題の発見や解決に挑む資質・能力を育成することが求められる。

Society5.0とは

サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）。狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもの。 ※内閣府 HP より

(3) 山口県教育振興基本計画 第1章 本県教育をめぐる状況（2）より

子どもたちの情報通信技術（ICT）を利用する時間は、スマートフォンをはじめとした様々なインターネット接続機器などの普及に伴い増加傾向にあります。情報化が進展

し、多様な情報へのアクセスが容易になる一方で、情報の意味の吟味や、文章の内容等を的確にとらえて読み解く能力に課題が生じているとの指摘もあります。こうした中、ICTを主体的に使いこなす力や、それに加えて他者と協働し、人間ならではの感性や創造性を発揮しつつ新しい価値を創造する力を育成することが一層重要になっています。

(4) 萩市学校教育

基本方針・学校教育の目標

「ふるさと萩を誇りとし、高い志を抱き、人や社会と積極的に関わる子どもの育成」

共通取組事項(6つの水準)と施策 (4、6は省略)

- | | |
|----------------|--------------------|
| 1 教育体制の充実を進めます | 2 学力の向上を図ります |
| 3 豊かな心を育てます | 5 教職員の資質能力の向上を図ります |

(5) 本校の教育目標

「ふるさと田万川に誇りをもち、志を抱き、未来を切り拓く児童生徒の育成」

(6) 本校の現状

- ・コミュニティ・スクールとして、地域の方々と生徒の交流が活発に行われている。また、体験的な活動も充実している。
- ・教科教室型校舎、地域開放型校舎の特性を生かした学習環境、学習空間づくりが可能である。

(7) 生徒の現状

- ・「学校評価アンケート」の結果からは、生徒・保護者ともに肯定的な回答(肯定率80%以上)が思いやり、学校でのあいさつ、規範意識であった。
- ・学習習慣については、家庭学習時間の確保と集中した取組に課題が見られる。
- ・「家庭学習のめやすの時間と内容」の再確認が必要である。

決まった時間に、決まった内容を、決まった場所で、集中して取り組む

- ・1年生 家庭学習時間：1時間程度(宿題、テスト勉強、自主学習)
- ・2年生 家庭学習時間：2時間程度(宿題、テスト勉強、自主学習)
- ・3年生 家庭学習時間：2時間+ α (宿題、弱点克服、テスト対策、3年間の復習)

(8) 保護者や地域の方々の願い(令和3年度学校評価アンケート結果から)

○保護者の肯定率90%以上の項目

- ・体験活動、保護者・地域との協議、保護者・地域と一緒に活動の楽しさ・学校へ協働

●改善が必要と思われる項目

- ・主体的な家庭学習、授業への取り組み、生徒の相談への対応、学校での挨拶、生活リズム、生活習慣、地域での挨拶

○地域の方々の肯定率90%以上の項目

- ・学校の様子の公開、地域からの見守り、地域行事への参加

●改善が必要と思われる項目

- ・地域での挨拶、学校行事への参加、保護者・地域と一緒に活動の楽しさ・学校との協働

●学校運営協議会からの意見として改善が必要と思われる項目

- ・学校、地域での挨拶

※その他 主な保護者・地域の意見

- ・授業での発表の時、声が小さくて聞き取れませんでした。
- ・地域の関わってりを通して自分の住んでいる田万川のよさや歴史を学んでほしい。
- ・いつも学校だよりを興味深く読ませてもらっています。
- ・集団に飲み込まれず、自信をもって行動し、敬語の使い方など社会に出たときに必要なことを身に付けてほしい。
- ・小中合同でできる教育活動に協力したい。
- ・生徒の方々は大きな声で、あいさつをしてくれています。
- ・地区社協行事に学校全体でお手伝いをしてくれるので地域住民から評判がよいです。
- ・感染対策をしながらも、できる範囲で行事ができてよかった。

3 研究仮説

各教科、道徳、学級活動、総合的な学習の時間において、「主体的・対話的で深い学び」に ICT を活用することにより、児童生徒自身が ICT を「文房具」として自由な発想で活用（※中教審答申より）できることになることで生徒が自分の考えを伝えるための表現の幅が広がる。また、相手の立場にたって、分かりやすく伝えるための方法を考えられるようになる。それにより、他生徒が意欲的に耳を傾け、それに対する自分の考えをもち、それを伝えることで思考が深まると考えられる。このような取組を繰り返すことで、身に付けさせたい「3つの力」（伝える力、かかわりあう力、考え追究する力）、「2つの心」（思いやりの心、ふるさとを愛する心）が高まり、能動的に学び続ける意識改善が促され、確かな学力を土台に主体的な学びに向かう生徒に育つであろう。

4 評価方法

- ・学校評価アンケート（7月と12月に実施。経年比較して考察）
- ・道徳アンケート（9月と1月に実施 経年比較して考察）
- ・地域の方をまじえたユニット型研修による授業評価
- ・生徒による授業評価シートの記述、ワークシート等の記述、道徳・学校行事後の感想文の記述内容の変化
- ・生徒の授業態度や行動の様子を見て観察して、変容を把握

5 校内研修の進め方

(1) 研修内容・・・各教科や道徳、学級活動の授業改善を中心に行う。

① ユニット型授業研究

道徳、学級活動、または各教科の互見授業を（6月と2月実施。1人1回授業デザイ

ンシート作成)、「授業を見に行こうよの日(10月13日)」に1、2、3年部担当3人が実施する(授業内容についての事前検討会を行った上で授業を公開する)。

② 学力向上の取組

職員会議や研修職員会議の中で、それまでに実施したテスト等の分析(県の結果との比較、誤答分析、出題内容の特徴的な傾向の把握等)や全教科で共通に実施する具体的な実践等の共通理解を図る。(例 授業中の声が小さい、生徒の発表の場面をもっと増やす等)

③ 学力向上推進リーダーとの連携

学力向上推進リーダーもユニット型研修の授業参観、振り返りの検討会に参加を依頼することで、より多角的な視点での指導助言を得られ、授業改善につなげる。

(2) 道徳教育の充実

① 道徳の時間の指導について

- ・各学年部の担任、副担任で分担し、道徳の授業(35時間)を実施する。必要に応じて、担当学年外での道徳の授業を行う。

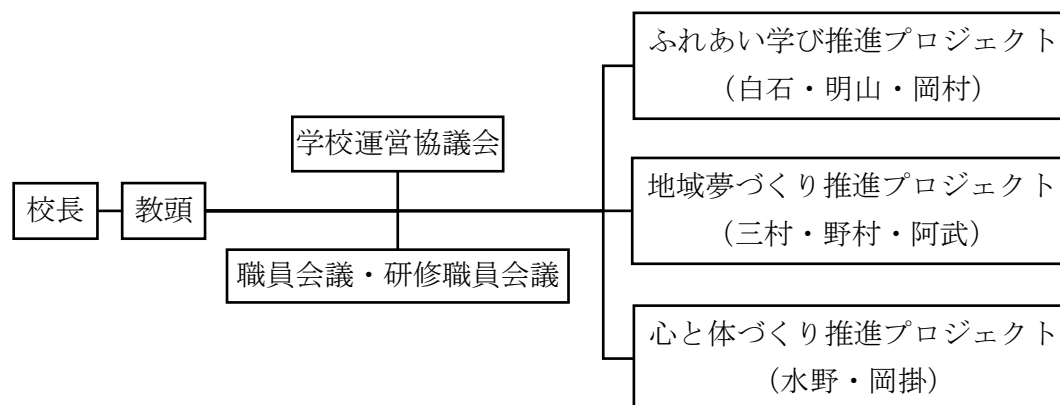
② 道徳の時間と他の教育活動との関連について

- ・学校行事や体験活動を道徳的な視点から見直す。
- ・薬物乱用防止教室、ケータイ安全教室(情報モラル)、教育講演会などは全校道徳として扱う。

③ 道徳教育と家庭や地域との連携について

- ・家庭や地域との連携について、道徳的な視点から見直す。

(3) 研修組織



6 年間研修計画 (案)

月	項 目	内 容
4	13(水) 研修職員会議①	・今年度の校内研修の方針、研修計画について 学力向上のための取組について
	19(火) 全国学力・学習状況調査 (3年) 国語、数学、理科 山口学習支援プログラム4月 確認問題 (1年) 国語、数学 (2年) 国語、数学、英語	・全国学力・学習状況調査、確認問題の実施
5	25(月) 研修職員会議②	・全国学力・学習状況調査、確認問題の結果分析 ・学力向上プランについて
6	8(水) 研修職員会議③	・検証改善サイクル(前半)における学力向上に向けた 「取組計画」の共通理解
	13(月) 互見授業週間① ~17(金) (15日(水)小中合同授業研修会)	・授業公開による授業改善(ユニット型研修) ・小中の情報交換
	25(土) 学校へ行こうよの日①	・ビブリオバトルの実施
7	6(水) 研修職員会議④	・ICTを活用した授業づくり(指導講話)
	下旬 校内研修	・配慮を要する生徒への指導方法
8	下旬 田万川地域小中合同研修会	・多磨小学校、小川小学校との情報交換
9	下旬 研修職員会議⑤	・授業を見に行こうよの日の指導案検討
10	13(木) 授業を見に行こうよの日	・授業公開による授業改善 ・ユニット型研修
	下旬 学力定着状況確認問題(1,2年)	・学力定着状況確認問題の実施
11	中旬 研修職員会議⑥	・学力定着状況確認問題の結果分析
	26(土) 学校へ行こうよの日②	・人権教育参観日、人権教育講演会
12	14(水) 研修職員会議⑦	・検証改善サイクル(後半)における学力向上に向け た「取組計画」の共通理解 ・学力向上プランの見直し
1	25(水) 研修職員会議⑧	・研究のあゆみ作成について ・ICTの活用について
	28(土) 学校へ行こうよの日③	・立志式、教育後援会
2	6(月) 互見授業週間 ~10(金)	・授業公開による授業改善(ユニット型研修)
3	15(水) 研修職員会議⑨	・研究のまとめ ・学力向上プラン、シラバスの見直し ・来年度に向けて

7 ユニット型授業研究について

ユニット研修

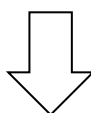
- ・授業担当者は、6月と2月に1回授業参観実施
- ※授業デザインシートを作成、全体での事前指導案検討は行わない。
- ※各ユニットで、6月と2月のどちらかに、1回だけ授業提供を行う。

○ユニット構成

各部を核として、校長・学校運営協議会委員で構成する。○が各ユニットの代表

ユニット構成		
A ユニット ○白石 明山	B ユニット ○三村 阿武	C ユニット ○水野 野村・岡掛
校長		
学校運営協議会委員		
学校運営協議会後にお知らせします。		

- ・授業公開の際には、各のユニットの代表者が、学校運営協議会委員と連絡を取り合い、互見週間中の授業参観日を設定する。(1ヶ月前から連絡調整に入る)
- ・授業参観直後の1時間を振り返りの時間として設定する。
- ・参観日時が決まったら、教務主任と日課編成の調整を行う。



授業を見に行こうよの日

日時：10月13日(木) 5校時

対象：教員、保護者、地域住民

※各ユニットを核として、全学年1コマの授業参観実施とその後の振り返り

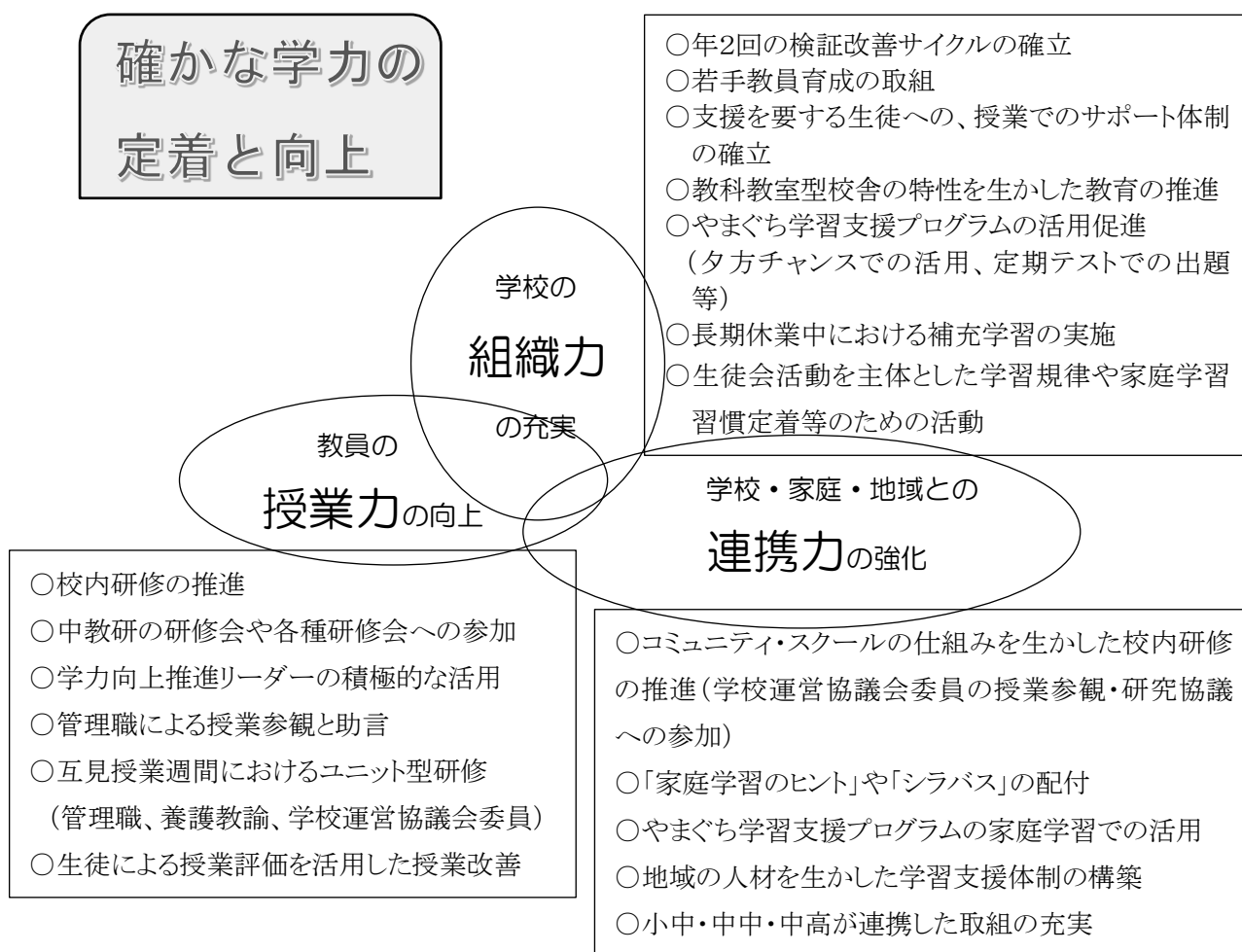
※全員がどこかの学年・時間で授業提供を行う。事前調整して決定する。

※指導案は、授業デザインシートを作成し、事前検討を研修委員会(9月下旬)で実施予定

	1年生	2年生	3年生
5校時	○ユニット	○ユニット	○ユニット
放課後	各部に分かれて、授業参観者を含めた振り返り		

※振り返り、ユニットリーダーが司会進行する。

8 学力向上の取組について



9 検証改善サイクルにおける学力向上に向けた取組（案）

5月 ・ 6月	<ul style="list-style-type: none"> ○国語、数学の担当者が全国学力・学習状況調査、4月確認問題の結果を分析し、課題解決に向けた取組内容を明確にする。 ○職員会議において、全校生徒の課題とその具体的な対応策について全教職員で共通理解を図り実行する。また、授業改善での取り組みを引き続き行うことを確認する。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「基本的な学習内容の定着、そのための自主的な家庭学習習慣の確立」 「学習事項を活用して問題解決の道筋を構想する力」 「授業改善として、授業での発表や忘れ物、聞く態度等」 <p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「授業における言語活動の充実(小グループで話し合い、発表する活動)」 「小テスト等の実施による学習内容の定着の確認、家庭学習への意欲付け」 「授業での発表や聞く態度の指導」
7月・8月	<ul style="list-style-type: none"> ○1学期の取組内容を振り返り、学力向上プランの見直しを行う。また、分析結果を踏まえて、夏季休業中に学習会を全学年で実施する。

9月・10月	<p>○全国学力・学習状況調査の結果について、全教職員で共通理解を図る。</p> <p>○学力定着状況確認問題の過去問題を行い、<u>問題の解き方のスキルを身に付けさせる。</u></p>
11月 ・ 12月	<p>○4教科の担当が学力定着状況確認問題の誤答分析を行い、傾向や課題を明確にする。</p> <p>○分析結果を踏まえて、冬季休業中の課題、補充学習を設定し、実施する。</p> <p>○2学期の取組内容を振り返り、学力向上プランの見直しを行う。</p>
1月・2月	<p>○職員会議において、全校生徒の課題とその具体的な対応策について全教職員で共通理解を図り実行する。</p> <p>【課題】 「問題文を的確に読み取り、指示された条件に従って答えること」「図・グラフなどの資料の読み取り」「記述式の問題で、適切な語彙を使って、理由や根拠を明らかにして、論理的に書くこと」「家庭学習習慣の確立」</p> <p>【取組】 「やまぐち学習支援プログラムや学期末評価問題を活用し、様々な出題形式に慣れさせる」「各教科の授業における言語活動、特に、書く時間を確保する」「学校行事後に振り返りを書く活動を実施する」「辞典などを活用させ、語彙を豊かにさせる」「家庭学習習慣の定着が不十分であるという実態を、保護者・生徒に啓発する」</p>
3月 ・ 春休み	<p>○学力向上プランに今年度の成果と課題を記入し、次年度に引き継ぐ。</p> <p>○全国学力・学習状況調査や4月確認問題の過去問題を行い、<u>問題の解き方のスキルを身に付けさせる。</u></p> <p>○復習のための問題を春季休業中の課題として出し、4月に提出させる。また、新入生にも、仮入学のときに課題を渡し、4月に提出させる。</p>

10 互見授業週間について

- 1 ねらい
 - (1) 小規模校における授業改善
教科の枠を超えた気軽な授業参観を通して、他の教員の優れた指導法を学び、自らの指導に生かす。
 - (2) 生徒理解の推進
他教科の授業における生徒の様子を観察することで、多面的に生徒を理解する。特に、支援を要する生徒の困り感に着目する。
 - (3) 若手教員の育成
若手教員の指導力向上に向け、学校全体で組織的に人材育成を行う。
- 2 期間

1学期…令和4年	6月13日(月)～	6月18日(金)
3学期…令和5年	2月6日(月)～	2月10日(金)
- 3 対象者

授業者…	各教科担当
参観者…	校長、教頭、養護教諭、事務主任を含む全教職員

※「学校だより」で告知し、オープンスクールの要素をもつ。

※1・3学期は、ユニット型研修として、学校運営協議会委員も参加。

- 4 対象授業 互見授業週間中のすべての授業
ただし、単元末テスト等を実施する場合、急な日課変更により、プリント学習やワーク等を行う場合などは除く。
- 5 方法 (1) 10分間以上は参観する。導入だけ、展開の一部だけ、終末だけの参観でもよい。
(2) 指導案を作成、配布する必要はない。
※ユニット研修の際には、授業デザインシートを作成する。
(3) 終了後に、互見授業週間の記録の提出をお願いします。
- 6 その他 お互いに負担感をもたないように、普段から授業を気軽に見せ合うようにしていきたい。たとえば、学力向上推進リーダーが参観される授業の板書型指導案は全教職員に配布する。